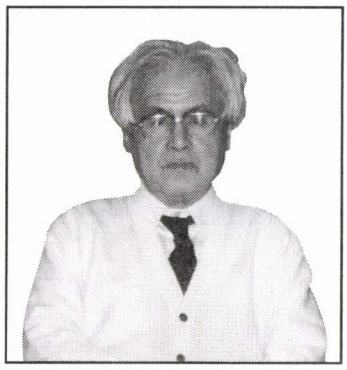
故　名誉会員　山岡一三先生のご逝去を悼む



本学会名誉会員の元関西大学工学部教授山岡一三先生が平成8年2月25日ご逝去されました。

先生は岡山県高梁市のご出身で、昭和22年に京都大学工学部土木工学科をご卒業後、建設省にご奉職されて、近畿地方の数多くのダム建設に従事されました。その後、昭和47年より、関西大学工学部土木工学科教授としてご教鞭をとられました。その間、学生には「土木工学の根元は土木構造物を実際に作ることである」をモットーに、実学の重要性とそのための研究教育を続けられました。厳しい研究教育姿勢の反面、風貌に似合わず、学生と時間を過ごすことがお好きで、持ち前のグルメ嗜好を活かして、学生達と一緒に大阪の南の繁華街をかっ歩されていたお姿を思い出します。

昭和55年頃にジオシンセティックスに関する研究に出会われてから、一心不乱の研究を続けられ、ジオシンセティックスの試験法や道路構造への適用など、数多くの研究と実験施工を実施され、この分野の研究の先駆的な立場にあられました。このときも、先生は室内での実験結果に満足されることなく、実際の現場に適用することでその有用性をご自分の目で確かめるという研究姿勢には変わりないものがありました。この間の先生のお仕事振りは、周りから見ても激務そのものであり、これがもとでお身体を害されたといっても過言ではないように思われます。病気で倒れられた後も、ジオシンセティックスを使用したロンガードチューブの適用性について実験施工を手がけられ、療養中のご自宅から現場まで何度も往復したことが懐かしく思い出されます。

以後、何度か入退院を繰り返され、昨年の11月頃から再入院されました。一時は安定を保っておられたのですが、肺炎のため、急にご様態が悪化し帰らぬ人となられました。

タバコをくわえ、ポケットに入った鍵の束の音を鳴らし、ときにはズボンからワイシャツをはみ出させて、大学の廊下を歩いておられたお姿を偲びながら、先生のご冥福を心よりお祈りする次第であります。

（関西大学工学部土木工学科　西形達明・記）